

「築50年の団地再生、8戸を募集 茨城県で34物件目の稼働開始」

ビレッジハウス・マネジメント

築50年の団地再生、8戸を募集

茨城県で34物件目の稼働開始



▲築50年の団地をリノベしたエスエルルームの一室
▼ビレッジハウス岩瀬の外観

賃貸住宅「ビレッジハウス」を管理・運営するビレッジハウス・マネジメント（東京都港区）はこのほど、茨城県桜川市に立つ築50年の物件をリノベーションし、「ビレッジハウス岩瀬」として入居募集を開始した。

同社は世界的な投資会社Forsters Investment Group（フォートレス・インベストメント・グループ・アメリカ）が取得した日本の旧雇用促進住宅約10万5000戸を運営・管理。既存の建物を有効活用しながら修繕・改修を行い、低家賃で提供している。中低所得者や外国人労働者の住まい探しにも配慮するもので、法人需要も高まって

いる。

茨城県内では旧雇用促進住宅36物件を取得して

おり、ビレッジハウス岩瀬は34物件目の再生となる。近隣にある4物件がいずれも9割前後の高い稼働率で推移していることから、地域の需要に対応すべく、今回の物件の再生を決めた。

2棟80戸のうち、まず8戸をリノベ。エアコンを設置し、全室を白が基

調の洋室に仕上げた。

想定する入居者層は、桜川市を中心に近隣の筑西市、真岡市に勤務する単身世帯。33・54㎡の2Kを月額2万3000円、2万6500円で提供する。

9月末に工事が完了し、10月27・28日には現地で仲介会社や近隣住民を対象に内覧会を開催。仲介会社16社を含む計35人が参加した。11月30日時点で、内見が13件、入居申し込みが5件あった。

参加者の声や近隣物件の属性から、同物件では地域内での住み替えや転入がメインになると予想している。

同社は2023年度中に全国21物件、114棟3526戸の稼働を開始する予定。

今後も地域のニーズに合わせて改修を進めていくとしている。